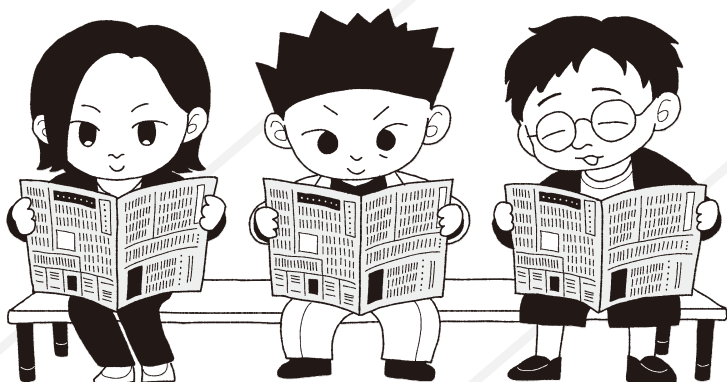


# 新聞のススめ

1日15分で作る教養の土台

高井宏章



読まずにめくるだけ

から

はじめれば、1か月で誰でも、

新聞を読む人

になれる!

15分  
×  
1か月



新聞のススメ

1日15分でつくる教養の土台

高井宏章

星海社

319





はじめに「読まなくていい」新聞ほど、便利なメディアはない

いま、若い人はほとんど新聞を読みません。

すべての情報はスマホに集約され、紙の新聞は消えゆくのみ——。私自身、現役記者時代はネット向けを優先して記事を執筆していました。「新聞はもう若者に届かない」と日本経済新聞に在籍していた時に会社の公式チャンネルでYouTubeにも取り組みました。

新聞の紙面作りは実に骨が折れる作業で、こんな「昭和な仕事」をいつまでやるのかと嫌気がさすこともたびたび。当時は社内外で「紙の新聞なんて、もう誰も読んでないですよ」と公言していました。

ところが、です。

2023年6月末に日経新聞を辞めて数か月経ったある日、ふと気づきました。

紙の新聞ってメチャクチャ便利だ。

今では自分のニュースの摂取量の半分程度を新聞が占めている感覚があります。残り半分はSNSやネットメディア、Podcastの流し聞きです。

私が再発見した紙の新聞の利便性を共有したい。特に、まだ新聞を読んだことがない若い人に。そこで、20代の若者ふたり、新倉にいぐらのどか和花さんと布施川ふせがわてんま天馬さんに、「30日間、新聞を讀んでみよう」プロジェクトに参加してもらいました。

「教材」には日本経済新聞を使用しています。筆者は元日経新聞編集委員で、マーケットや国際情勢を中心に28年間、記者やデスクとして紙面づくりに関わりました。古巣ではありませんが、本書はヨイシヨなし、忖度なしで企画・執筆しています。日経を普段読んでいる方には「裏読みモノ」としても楽しんでいただけるかと思えます。日経関係者の皆さん、正直に書きすぎってしまったかもしれません。ご寛恕かんじょを願います。

さて、「新聞を讀もう」という本の冒頭からハシゴを外すようですが、新聞の最大のメリットは「読まなくてもいいこと」です。読むのではなく「眺める」でOK。紙の新聞の価値は、紙面のレイアウトと見出しにあります。ざっと眺めて日々、めくるだけでいい。時間があれば気になる記事だけ拾い読みする。

ほとんど読みもしない紙の束に1か月5000円も6000円も払うなんて、もったいない。そう思うかもしれません。

とんでもない。紙の新聞は、安いです。費用対効果、いわゆるコスパ（この言葉、あまり好きではないです）がとても良い。タイプ（もっとも苦手な言葉）もとても良い。

「それはオジサン（今年で52歳です）の意見でしょ」と鼻で笑いたくなる気持ちは分かりません。でも、それは「読んだことがないから」だと思います。実際、まったく触れたことがない人にとって、新聞はどこから手をつけたら良いか分からない「活字の洪水」でしょう。新聞の読み方や徹底活用法といった類たぐいの本には、腰を据えて新聞を読みこなす方法が書いてあります。でも、繰り返ししますが、新聞は読む必要はないのです。そもそも、全部読む暇なんて、誰にもありません。勘所をおさえて、めくればいい。流し読みどころじゃなく、ただただ、めくればいい。

騙だまされたと思って30日間、本書と一緒に「新聞がある生活」を送ってみれば、手軽で楽しい新聞の読み方が身につくと思います。まったく新聞を読んだことがない人（布施川さんがそうでした）でもトライできる「めくり方」から入ります。そして、日々新聞をめくった先に、自分なりの「読み方」が見えてくるはずですよ。

私の持論は「新聞は連続テレビ小説だ」です。NHKが朝と昼に放送している15分枠のあの連続ドラマ、そもそもネーミングの元ネタは新聞の連載小説のはずです。かつては小説は新聞の超有力コンテンツで、夏目漱石の名作のいくつかは朝日新聞に連載されたものです。

連続テレビ小説の良いところは15分間という短い時間で、朝の支度の間になんとなく見ていれば、それなりに世界観とストーリーが頭に入ってくる場所です。大きな流れがつかめていると「ここは大事なシーンだぞ」とわかるから、ちょっと集中して視聴できる。でも、1、2回くらい飛ばしてしまっても、回想シーンも入ったりしてなんとかストーリーにはついていける。毎日見ればより楽しく、でも無理しなくても視聴は続けられるゆるさもある。

新聞を日々読むのは、連続テレビ小説を見るのとよく似ています。毎朝届くので習慣にしやすい。本を読むほどの負担にはならない。毎日読めば、ドラマのストーリーが自然に入ってくるように、ニュースの流れが見えてくる。「これは大事なニュースだ」という勘も働くようになる。1日か2日飛ばしてしまっても、キャッチアップできる。



「新聞を読む人」になるメリットが今ほど大きい時代はないとも私は思います。

情報収集には、ふたつの大事な要素があります。

ひとつは「誰もが知っているべきことを押さえる」。もうひとつは「誰もが知っているわけではないことにアンテナを広げる」です。新聞は本来、前者を満たすメディアですが、幸か不幸か、日本ではもう、若者は新聞を読んでいません。なんと、50代まで広げても、購読している方が少数派です。

つまり、新聞を読むだけで、あなたは誰かと差がつけられます。「知るべきこと」を押さえつつ、「他の人が知らない情報」を入手できる。一石二鳥とはこのこと。

それでは、オジサンと若者ふたりの愉快的な「30日間、新聞を読んでみよう」プロジェクトの顛末てんまつをお楽しみください。

高井宏章

はじめに 「読まなくていい」新聞ほど、便利なメディアはない 3

## 第1章 紙の新聞、読んだことある？ 11

いまどき、誰も読まない？ 12

高い？ 安い？ 「紙の新聞」のコスパ 19

新聞の価値の5割は「見出し」 25

新聞は「前」と「左」がえらい 28

社説はひとまず読まなくていい？ 31

陰謀論へのワクチン 35

ミニコラム 「かつての新聞大国ニッポン」 40

## 第2章 見出しだけ読んでみた (10日目) 43

第  
**3**  
章

**破いて読んでみた** (20日目)  
83

新聞は飛ばし読みが前提 44

面白いと思ったところだけ読む 51

すべてつながっている！ 55

高井流「破いて保存」 60

「すぐ捨てる」が大事 67

紙だから楽ができる 71

「もうひとつの1面」文化面 73

ミニコラム 紙の方がアタマに入る？ 80

引っかかったら、とにかく「破る」 84

コミュニケーションの土台になる 92

「前文」だけ読めばいい 99

新聞作りにかかる膨大なエネルギー 107

ミニコラム 「信頼できる」けど「読まれない」 118

第  
**4**  
章

紙の新聞を読むということ  
(30日目)

121

1か月読んでみて 122

新聞のコスパは？ 130

中上級者向けのおまけ 136

たかが新聞、されど新聞 145

(布施川)「新聞＝オジサンのもの」じゃない 148

(新倉)世界を見る解像度が上がる 150

(高井)「ゼロから」でも新聞は読める 152

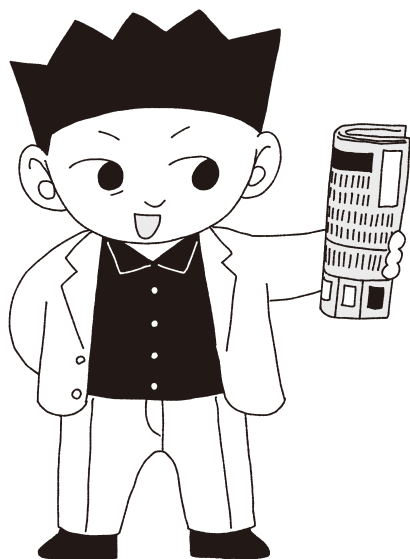
あとがき

154

第 **1** 章

---

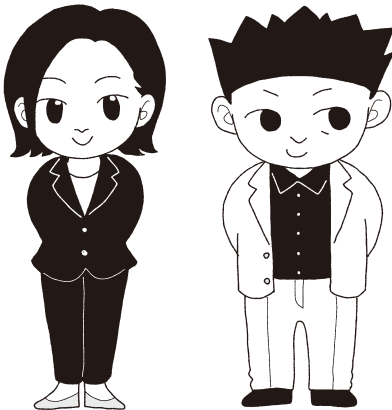
紙の新聞、  
読んだことある？



いまどき、誰も読まない？

**高井** 最初に自己紹介を。私は高井宏章と申します。1995年に日本経済新聞社に入社して、新聞記者を28年間やっていました。2023年に円満退社しまして、いまはYouTuberや経済コラムニストをやっています。

**新倉** にいぐらのとしか 新倉和花です。東大法学部を出て大学院で法律を学んでいましたが、今は麻雀プロをやっています。私は小学生の頃に『読売KODOMO新聞』を読んでいます。中学生になって親が読んでいた読売新聞と日刊スポーツを読むようになりましたが、徐々に読まなくなっていき、実家を出た今ではもうほとんど読んでないですね。



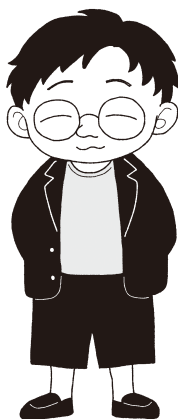
布施川 布施川ふせがわてんま天馬です。現役の東大生です。文学部です。いまは学業の傍かたわらライターライターの活動などをしております。新聞はたぶん一度もまともに読んだことがないですね。

一同 おお〜。

布施川 おためしで1部だけもらったことはありますが、結局一文字も読まないで捨てちゃいましたし……。社説は読んだことあるかな、くらいですね。

高井 まずね、おふたりに聞きたいんだけど、ニュースってどこで撮取してるの？ たとえば一時期、大谷翔平の元通訳の違法賭博問題がすごい話題になったじゃない。ああいうのってどこから知るわけ？

新倉 X (旧 Twitter) ですね。



高井 Xだと、ポストを見て、気になったらリンクを踏んでニュースサイトへ飛ぶ感じだね。布施川さんは？

布施川 僕もXと、テレビですね。親がテレビをつけっぱなしにしていることが多いので、朝や夕方ニュース番組で情報が入ってくる。

高井 じゃあ、ニュースを読んだり、情報を撮取したりする時間って、1日にどれくらいあるのかな。

新倉 朝の家事を終えて、仕事を始めるまでの20分くらいですね。私はSNSを情報収集で使うことが多いので、トレンドやオススメ投稿を眺めています。

高井 その時にXを見るわけね。

新倉 そうですね。世界との接点がXくらいしかないなので、暇つぶしがてらニュースポ



タルみたいに見えています。まあ、Xが世相を反映できているとは思わないんですけど、「鳥山明さん、亡くなったんだ」とか、大きなニュースを知る場所がそれくらいしかないの……。

高井 布施川さんはどう？

布施川 僕もほぼ同じですね。面白そうなニュースないかなーってXで探す。Xは、人の交流ではなく、情報を見に行く感じですね。ニュースリンクとか見て面白そうなやつがあったら踏むとか……。あとは、グーグルのニュースフィード。

高井 1日の摂取時間はどれくらい？

布施川 10分くらいです。

高井 なるほどね。さて、今まで考えたこともないのかもしれないんだけど、みんな、な

んで新聞読まないの？ 新聞を情報摂取のツールにしないのはどうして？ 高いから？

新倉 実家を出た後は自分で新聞を契約したことがないから、新聞を取ろうという気にもならないですね。発想の中にはないです。そもそも自分から新聞がほしいと思ったことがありません。

高井 布施川さんは？

布施川 僕は実家住まいですけど、新聞は取っていないですし、僕だけじゃなく家族全員、読まないです。

高井 そうか。そこはジェネレーションギャップがあるね。僕が育った1970年代、80年代は、たいいていの家には新聞があったんです。それで、大学3年生くらいになると自分で日経新聞を購読する。就活が始まるから。就活で出会うオジサンたちの話がわからない、読まないとまずい、とりあえず読もう。そんな「常識」があった。就職後も続けて読む人

が多かった。ざつとは目を通しておかないと「あれ、どう思う？」って会話についていけない。新聞が「ここまではみんな共有してるよね」という情報の土台だった時代です。

布施川　なるほど……。

高井　なーんてエラそうなこと言ったけど、僕が日経新聞をはじめとちゃんと読んだのは、日経の入社試験の面接当日の朝刊だったんだけどね（笑）

一同　え！

高井　東京の本社に向かう朝、名古屋駅の新幹線のホームの売店で初めて買いました。政治系のゼミだったので社説だけは各紙の読み比べで読んだことあったけど、経済にそんなに関心があったわけでもなく……。地元紙の中日新聞を自宅で取っていて、朝日とか他の新聞は喫茶店や大学の図書館でちょいちょい読んでいたかなー、くらいです。

布施川 それでなぜ日経に入ったんですか（笑）

高井 ま、ご縁、ですかね。それはともかく、もうひとつ伺いたいんだけど。新聞って、どんなイメージがありますか。よくネット上だと新聞とかテレビのことを「マスゴミ」とっていう人もいますが、メディアとしての信用はどう？ ネットの方が情報は速いわけだし。

新倉 やっぱり、速報性はないのかなとは思いますが。その分、応援している球団が勝つと「明日のスポーツ新聞楽しみだなあ」ってなりますから、そこは良し悪しかと。タイムラグは必ずしもマイナスにはならない。それにニュースって書き手の立場で書き方が変わって当たり前だとも思います。メディアは中立であるべき、と思い込んでいる人がマスコミを信用できなくなるのかなと。

高井 なるほど。布施川さんは？

布施川 新聞のいいところはやっぱり、ある程度信頼のおけるソースからまとまった情報

が送られるところだと思っんですよね。

高井 読んでないのに（笑）

布施川 読んでないからこそ、そう予想してます（笑） 売れているから新聞はずっと残り続けてきたワケで、それはある程度信用できる情報をパッケージで提供してくれるからじゃないか、と。ネットメディアのニュースはひとつひとつが孤立しているので。

## 高い？ 安い？ 「紙の新聞」のコスパ

高井 なるほどね。最後に、コスパとしてはどう？ いま、日経新聞は1部200円、朝刊と電子版のセットだと月5800円、夕刊付きだとプラス700円。アバウト6000円か。社員だった頃はタダで読めた身からすると、けっこう高いねえ。

新倉 「活字を提供してくれるサブスク」だと思えば、6000円はちょっと高いですよね……。小学生の頃は活字中毒だったので、毎朝まだ読んだことがない文章が届く『読売KODOMO新聞』はすごくよかったです。大きくなるにつれて新聞を読まなくなったのは、活字に興味がなくなっていたから、という面があると思います。その細<sup>ほそ</sup>った「活字欲」も、今となってはネットとかで簡単に満たされるし、「読んだことがない文章」の価値は下がっていて、新聞は少し値段のハードルを感じます。

高井 そりゃ、そうだよ。『東大式節約勉強法』という本まで書いている布施川先生からしたら6000円なんてありえないんじゃないですか？(笑)

布施川 メチャクチャ安いと思いますよ。

高井 えええ！ じゃあ、なんで取らないの(笑)

布施川 1日200円払うだけで、毎日、新鮮で信頼のおける情報が届く。すごく優れて

いるんじゃないかと思えます。

高井 おおー。しかし、じゃあ、なんで取らないのか（笑）

布施川 なぜでしょう（笑）でも、最近、個人ブロガーとかがオンラインサロン開いてますよね。「投資情報を教えます！」とかいって、月に数千円とか取ってる。そういうものに金払うよりはよっぽど価値があると感じます。

高井 なるほどね。安いか高いかでいうと、僕は安いと思ってます。特に紙の新聞は格安。メディアだから「どんな情報が得られるか」が極めて重要なのは確かですが、紙の新聞には別の大きな価値があって、それは「毎日決まった形式で、決まった時間に活字を読む」習慣づけができることです。

新倉 ははあ。

高井 毎朝、自宅まで「モノ」を届けてくれる。それを読む習慣そのものに価値がある。そのための装置として紙の新聞はとても優れている。おふたりは、朝ごはん、ちゃんと食べる人？

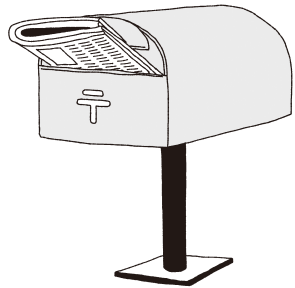
新倉 私は食べます。

布施川 僕は食べません。お茶を飲むくらい。

高井 朝起きてからエンジンかかるまではどれくらい？

布施川 最近はギリギリまで寝てるので……朝はあまり余裕ないですね。

高井 睡眠優先なのね。僕は朝ごはんを軽く食べる派でして、その時に新聞を読むんですよ。在宅で仕事している日は昼ごはんの時に読むこともあります。どっちにしても、「1





日の早めの時間にざっと目を通す」と習慣化するのがオススメ。ちなみに食事中はテレビ、スマホ、マンガはナシだけど新聞だけはOKというのが自分ルールです。

布施川 いいですね。

高井 朝ごはんを食べながら読むというか、新聞をめくる。早いと10分くらいです。読み応えのある良い記事が多い日は1時間くらいかかるけど、平均30分いかないと思う。これを毎日続ける。新聞は続き物、連続テレビ小説みたいなものなので、できるだけ続けて読む。

新倉 連続テレビ小説ということは、過去の分から伏線を思い出したり、展開が予想できたりするんですか？

高井 そう。ニュースには「流れ」があります。ある日突然、ビックリ仰天のことが起きる場合もあるけど、多くのケースで短くて数日、たいていは数週間から数か月単位の流れ

がある。それを追えるようになると、面白くなってくるし、「ここは途中経過のエピソードだからスルー気味でいいな」というのも分かる。理解が深まって面白く読めるところが増えて、読まなくていい記事を見分ける嗅覚きゅうかくもつくから効率が上がる。

布施川 普通のドラマだと、1回でも見逃すと話が分かんなくなっちゃうような。

高井 それほど1回分が重くないのも、連続テレビ小説的なんです。普通のドラマは1回パスすると筋が追えないけど、15分単位の連続テレビ小説なら、なんとかなるじゃない。だからたまに「今日は読めなかったな」があっても全然大丈夫。

新倉 そういわれると、ちょっと気が楽になります。

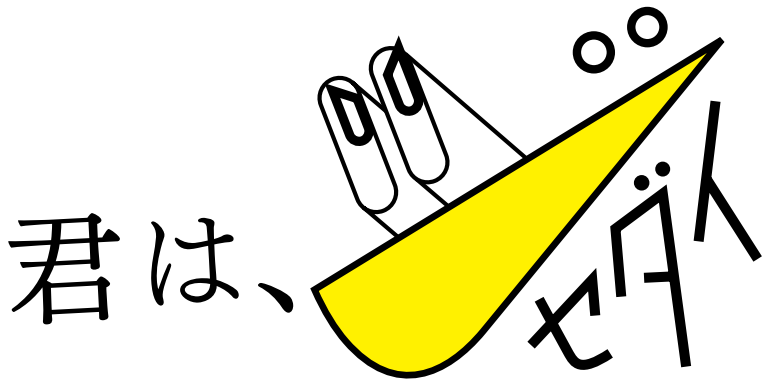


高井 とにかく15分でもいいので、続けるのが大事。たぶん、最初は意味が分からない言葉がいっぱい出てくるでしょう。それでも続けるコツは、分からない言葉はスルーすること（笑）たとえば今日の朝刊のこの、「グロース指数」。意味不明だね？ こういうのは、いちいち調べず読み飛ばす。英語の長文読むときとちよつと似ているかもしれない。何度も出てきて、「ここが分からないとどうにもならん」とイライラしてから調べるくらいでちよいどいい。

## 新聞の価値の5割は「見出し」

高井 新聞は1日分で文庫本1冊くらいのテキストが入っているとされています。それをどうやって15分で飛ばし読みするかといえば、見出しだけ眺めるんです。

新倉 見出しだけ、でいいんですか？



# 君は、ゼダイ人 何と闘うか？ <https://ji-sedai.jp>

「ジセダイ」は、20代以下の若者に向けた、**行動機会提案サイト**です。読む→考える→行動する。このサイクルを、困難な時代にあっても前向きに自分の人生を切り開いていこうとする次世代の人間に向けて提供し続けます。

メインコンテンツ

## ジセダイイベント

著者に会える、同世代と話せるイベントを毎月開催中！ 行動機会提案サイトの真骨頂です！

## ジセダイ総研

若手専門家による、事実に基いた、論点の明確な読み物を。「議論の始点」を供給するシンクタンク設立！

## 星海社新書試し読み

既刊・新刊を含む、すべての星海社新書が試し読み可能！

マーカー部分をクリックして、「ジセダイ」をチェック!!!

# 行動せよ!!!